

研究統括からのご挨拶



河合優年

すくすくコホートにご参加いただいているみなさまにおかれましては、まずまずご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、さまざまな調査や観察にご協力いただき、研究グループとしてところより感謝申し上げます。

コホートというのは、ある年に生まれたお子さんたちを追跡していくことによって、丹念に子どもの育っていく姿を見ていこうとする研究の方法です。これは、研究する側の意気込みだけでは進められません。私たちは、養育者の方々が持っている子育ての知恵を科学的に解明し、広くみんなでも共有することができればと思っています。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

さて、この研究がスタートしてから6年目を迎えようとしています。すくすくコホート三重にご参加のみなさんの中には来年4月には小学校に入学されるお子さんもいらっしゃいます。武庫川チャイルドスタディのお子さんたちは4歳になります。

ベビーチェアに座って目の前に示されたガラガラにようやく手を伸ばしていた赤ちゃんが、いまではりっぱなお兄ちゃんやお姉ちゃんになっています。育ちの速さと子どもたちの個性のすばらしさを目の当たりにしています。

昨年4月に、科学技術振興機構(JST)の研究から、文部科学省の科学研究費補助金(基盤研究A)に移行しました。新しい体制になってから、できるだけ早くニュースレターをと思っておりましたが、移行手続きや体制の整備などのため、今日になってしまいました。

みなさまのご協力のおかげで、子どもの育ちについて多くのことが分かってきています。このニュースレターでもその一部をお伝えしていますが、お母さんとの関係の結び方や、個性のあらわれ方など、普段は生活の中で気付かないような事柄が見えてきています。

私たちの研究は、当初ご説明いたしましたように、協力いただいているお子さんの小学校入学後しばらくまでの期間を視野に入れてすすめています。子どもたちがどのように育ち、学んでいくのかについての、日本でも数少ない取り組みとなっています。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

武庫川チャイルドスタディ

(河合・難波)

武庫川チャイルドスタディのスタッフは、お越し頂いた時にみなさまにお会いする、ご案内やご説明、記録などを担当しているスタッフだけではなく、武庫川チャイルドスタディはもちろん、すくすくコホート三重のデータを含め、お一人お一人のデータを管理し、数値化するという作業を担当しているスタッフも大勢います。写真はそのメンバーの一部です。このデータをもとにして、ご協力いただいているみなさまの平均的な育ちを見るための分析作業を行っています。



山本初実



山川紀子

すくすくコホート三重では、3歳半の観察にご協力いただいたうち約9割の方に、新しい研究にもご協力いただいています。この研究が成り立っていますのも、みなさまのご協力のおかげと、深く感謝しています。三重グループでは、すくすくコホートに加え、妊婦の方にご協力いただいで妊娠中のストレスが胎児に与える影響についても検討を始めています。みなさまから得られた膨大なデータから、少しずつ結果が出始めています。今後どうぞよろしくお願いいたします。

すくすくコホート三重

(山本・山川)



今後の予定

ニュースレターは年2回の発行を予定しています。各号で、これからのおおよその予定をお伝えしていければと考えています。各グループと全体の予定は以下のようになっています。

【すくすくコホート三重】

三重では、早生まれのお子さんが来春就学を迎えられます。月日のたつのは早いものだと、気分はすっかり「親戚のおばちゃん」のスタッフ一同、感慨にふけています。ご入学後には、学校にうまくなじめているかの調査を計画中ですので、ご協力をよろしくお願ひいたします。NICU出身のお子さんのグループは現在3歳半の観察を行っています。会うたびにみんなの成長に驚かされ、お子さんたちからスタッフが元気をもらっています。

【武庫川チャイルドスタディ】

武庫川では、引き続き3歳半の観察を進めて参ります。来年は、さらにきめ細かな対応ができるように、研究スタッフの強化を行います。また、武庫川女子大学教育研究所主催の子どもの育ちや学びに関する催し物のご案内もさせて頂けるのではないかと考えています。

【全体】

来年は、すくすくコホート三重のお子さんたちの一部が小学校入学を迎えられます。これに対応して、三重大学教育学部の松浦均教授が研究に参加します。育ちと学びをつないだ研究ができるようになるかと考えています。

編集後記

ようやく念願のニュースレターを出すことができました。みなさまにご協力いただいていることが日本の子どもたちの未来へと結びついていきます。私たちの研究がどのようなことを目指しているのかを順次お伝えできればと思っております。

本研究の推進にあたっては、三重県教育委員会、三重県健康福祉部、尾鷲市教育委員会、尾鷲総合病院、国立病院機構三重中央医療センター、西宮市教育委員会、西宮市健康福祉部、西宮市保健所、武庫川女子大学のご理解とご協力を頂いています。



Japan Children's Study

【すくすくコホート三重】

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL: 059-259-1211 (代)

【武庫川チャイルドスタディ】

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX: 0798-45-9880

この研究は文部科学省の日本学術振興会 科学研究費補助金(課題番号 21243039)から研究支援をいただいています。



Japan Children's Study

すくすくコホート ニュースレター

平成22年度
冬号



すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ・JCS

こんなことがわかってきています。 ～すくすくコホート活動レポート～

最近の新たな取り組みや、これまでの活動でわかってきたことをご報告します。

お子さんの育ちや、お母さんとのやりとりが、年齢とともにどのように変化していくのかを明らかにして、そこで繰り返されている関わりを解析するためには膨大な時間がかかります。協力していただいているみなさまには、一人一人の育ちについてはその都度お話をさせていただいておりますが、ようやく全体としてなにが分かってきたのかについてもお伝えできるようになってきました。これからのニューズレターには、分かってきたことを順番にのせていきたいと考えています。

変

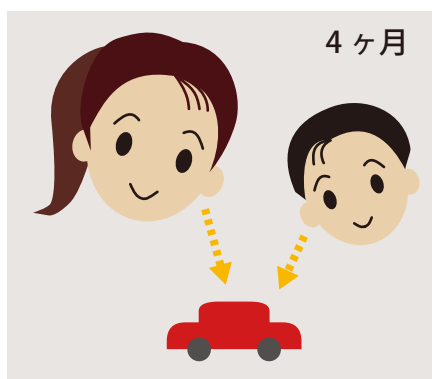
わったのはお母さんかな、子どもかな？

観察場面ではおもちゃを使ってお母さんとお子さんがやりとりをするところがありました。ここで何をみているのかな、と思われたのではないのでしょうか。人間はその字のとおり、人と人との間で生きています。お子さんもその例外ではありません。もっとも大切な、お母さんとの間で、いろいろなやりとりをしています。

この場面では、物を介してのやりとりが、発達とともにどのように変わっていくのかを調べていました。結果はとても興味深いものでした。

ここでは、お子さんとお母さんの視線の方向と発声を分析しました。4ヶ月の時点では、お母さんとお子さんは同時におもちゃを見ていますが、その場面で一緒に声を出すことはありません。9ヶ月になると、お母さんはおもちゃを見ながら声を出すようになります。お子さんはお母さんと一緒におもちゃを見ているのですが、お子さんからの声はまだないです。ちょうど、お子さんにお母さんがおもちゃについて説明しているかのような場面がみられたのです。18ヶ月になるとさらに状況は変わってきます。お母さんがおもちゃを見ながらお子さんの方に向かって話しかけ、お子さんは同時に声を出すようになります。このころになると、お母さんとお子さんは目と目を見合わせながら、互いに声をだすようになっていきます。これは、大人のコミュニケーションと全く同じです。

お母さんとお子さんとのコミュニケーションがどのように変化していくのかについては、これまであまり分かっていませんでした。今回の研究から、同じ物を見ている段階から、お母さんがお子さんと対象を共有しているときに声を出すという段階を経て、同じものを見ながらお子さんが発する声にお母さんが応えるという、コ



ミュニケーションの段階に至るのではないかとということが分かってきたのです。18ヶ月は、言葉の芽生えがみられる年齢です。お母さんは、お子さんが私の言葉を理解しているのではないかと手応えを感じるようになり、相互作用をますます増やすこととなります。これが子どもの社会性の発達とつながっていくのです。

ところで、ここで起きている変化はどちらが作り出しているのでしょうか。お子さんがお母さんの働きかけを理解できるようになった結果、コミュニケーションが生まれたのでしょうか。それとも、お母さんがお子さんの能力が高まったことを知って、コミュニケーションの方法を変えたのでしょうか。実は、この研究では、原因と結果を知ることはできません。両方が関係しているということは分かるのですが、どちらが変化を作り出しているのかは分からないのです。

分かっているのは、どちらも大切であるということです。親子関係は、自分たちが気づいていない時にも変化をしているのです。大人が子どもの行動の変化を適切に理解し、それに応じて反応を返すことが発達にとって重要なでしょうね。

お

母さんのストレスと精神的健康について

少し古い部分になりますが、お子さんが9ヶ月の時と18ヶ月の時にお答えいただいた質問票調査のなかで、わかってきたことを2つご紹介します。

1 つめは、9ヶ月の時点でのお母さんの精神的健康についてです。お母さんが精神的に健康であることは、毎日育児をしていく上でとても大切なことです。検討の結果、お

母さんの精神的健康に直接よい影響を与えているのは、「育児ストレスが少ないこと」「家族がうまくいっていること」「4ヶ月時点でお父さんの育児参加にお母さんが満足していること」「9ヶ月時に夫婦で育児方針についての話し合いをしていること」の4つであることがわかりました。前半の2つの項目は当たり前のような気がしますが、分析によりきちんと証明ができました。残念ながら、お父さんが「育児に参加している」と自負していても、お母さんの精神的健康度を高めることに直接には関係していませんでした。お母さんは、お子さんが4ヶ月の頃に、自分が助けてほしいと思うことをお父さんがやってくれていると思えると、9ヶ月の時点で健康な心持ちで毎日が過ごせるようです。9ヶ月頃になると、今度は、育児の方針について一緒に考えてもらえると、気持ちが落ち着くようです。

次は、18ヶ月の時点で、それまでの1年間に強いストレスを感じる出来事があったお母さんとなかったお母さんとの違いを調べた結果です。ストレスがあった人では自分に対する自信が持てず、身体や気持ちの状態が不調になりやすい、ということがわかりました。そして、自分への自信がない人や気持ちが不調になりやすい人は、精神的な健康度が低く、イライラしやすい、ということもわかりました。

すくすくコホートの観察にも多くのお父さんが一緒に来られます。お父さんが、忙しい中でも「自分も育児に参加している！」という自負と満足感を持たれるのはとても大切だと思います。ただ、その時に、お母さんは今自分に何を求めているか？ という視点を忘れずにいられると、お母さんはとても満足し、自信を持って夫婦円満に楽しく子育てをしていけるようです。今からでも遅くはありません。ご夫婦でぜひ一度、ゆっくり話し合ってみてくださいね。

子

コラム①武庫川チャイルドスタディ 子どもとのつながりを 作り出す絵本

最近では、0歳のときに絵本を手渡す活動、ブックスタートが各自治体で広がっています。この活動は、赤ちゃんと保護者に負担を強いるような早期教育が目的ではなく、赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときをもつきっかけをつくるのが目的であると謳われています。

さて武庫川チャイルドスタディでは、4ヶ月のときからお母さんがお子さんに絵本を読み聞かせる場面を見せていただいています。毎回文字や文章が極端に少ない“文字なし絵本”をお渡ししています。初めて見る絵本であることも多かったようで、「どこを読めばいいの？」と戸惑われたお母さんもおられたようです。

まだ話さないころ、お子さんは一所懸命に絵本を眺めていたり、ページをめくってみようと手を伸ばしたり、お口の中に入れてみたりしています。運動が活発になると、じっとしていられなくてお母さんのひざの上から脱出しようとするお子さんも多くなります。だんだんと絵本の内容に注意が向き、そして、絵本を“おもちゃ”とは違う“本”として扱う(食べたりせず、ページを順にめくる)ことができるようになってきました。

そして、お子さんが言葉で伝えられるようになる前から、お母さんはそれぞれのお子さんに合わせて、どのようにすればお子さんが興味を持ってくれそうか、対応を柔軟に変化させておられるようすがうかがえました。今後お母さんとお子さんの絵本を介したやりとりはどんな風に変



9ヶ月『HUG』読み聞かせのようす(左)。5歳 パソコンを使った「同じもの探しゲーム」のようす(右)。(掲載を承諾していただいた方のお写真を使わせていただいています)

化していくのでしょうか。また新しい絵本をご用意してお待ちしています。

パ

コラム②三重すくすくコホート パソコンを用いた課題では 何をしているのでしょうか？

三重グループでは、5歳の観察の時に、PCを使って「同じもの探しゲーム」を行っています。NICUコホートのみなさまはもう少しお待ちくださいね。5歳になったらチャレンジしていただきます。これは、画面の上部に出てくるいろいろな絵や写真と同じものを、下部に出てくる数個の絵や写真の中から探し出すものです。同じ絵を見つけたら、タッチパネルのその絵の部分の指で押ししてもらいます。

最初はみんな神妙ですが、慣れてくると個性が出てきます。ひとつひとつじっくり見てゆっくり確実に押していく子、間違ふことを恐れずにどんどん押していく子、絵や写真の種類によって得意不得意がはっきりしている子、課題の絵や写真よりも、その間に出てくる文章のほうに気になる子、などさまざまで、とても興味深いです。

この課題への取り組み方は、子どもたちが日常生活でいろいろなことに取り組む時の様子を反映しているかもしれません。この結果を分析することで、子どもたちの何かへの取り組みの様子を、何らかの数値やパターンで表すことができるのではないかと期待しています。

この課題は6歳時の観察でも行う予定です。1年たつとどのように様子かわарるのかについても、楽しみにしています。

